

灯

(あかり)

『汗を流して、未来を拓く』

令和6年1月9日(火) 第25号

文責：校長 森下 隆司

新年あけましておめでとうございます — 1年のまとめの3学期がスタート—

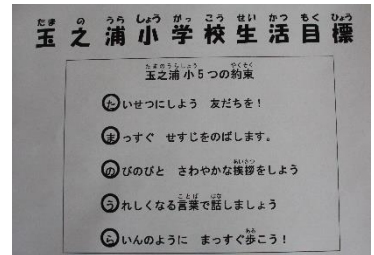
年末年始は、お子様そして御家族のみなさまにとっても、穏やかで充実した日々をお過ごしであったことと拝察いたします。子供たちにとっては、18日間はそれほど長い休みではなかったかもしれませんが、年末年始の様々な思い出ができ、充実した日々を過ごしたのではないのでしょうか。

さて、本日から第3学期が始まりました。3学期は1年の中で最も短い学期です。小学6年生、中学3年生にとっては46日間、その他の学年の子供たちにとっても51日間しか登校する日はありません。3学期は、1年間のまとめの学期となりますので、玉之浦小中学校でもその学年で身に付けなければならない学習内容を確実に身に付けさせること、そして、各学年に設定されている教育課程をしっかりと終わらせることが大事になります。要は、1年間が終了した時点で、一人ひとりの子供たちがその学年の発達段階に即した学びと成長が保証されていないということなのです。

本日の始業式では、子供たち一人ひとりの確かな学びにつなげるべく、子供たちへ以下の内容をメッセージとして話しました。これまでに引き続き、保護者の方々の御理解と御協力を賜りながら、子供たち一人ひとりの成長に向けて教職員が一致団結して取り組んでまいります。3学期もどうぞ、よろしくお願いいたします。

①「きまりを守って、誰もが過ごしやすい毎日を送る」

玉之浦小中学校には、様々なきまりや目標があります。例えば、12月に子供たち自身が示した「人権宣言」。友達やまわりの人を尊重し、楽しい生活を送るために決めた目標です。また、生活委員会が決めて取り組んでいる「玉之浦小学校生活目標」。児童生徒用玄関に掲示されています。自分達で決めたことは、より尊重して守っていく必要があります。



②「決めたこと、目標としていることを、『やり遂げる』」

元旦から1月3日にかけて行われた2つの駅伝を例に、力を発揮するために必要な準備の大切さとやり続けることの成果について話をしました。どんな困難にあっても、日々の努力に培われ身に付けた力は、きっと打開できる一手として本領を発揮します。御家庭でも子供たちの毎日が充実し、一つでも多くのことをやり続けることができるようにご支援ください。

たまんなっ子じまん — 長崎新聞「ジュニア俳壇」—

これまで紹介してきた「長崎新聞『ジュニア俳壇』」の12月25日発行分に、3名の中学生の作品が掲載されました。新年を迎えても、玉之浦小中学校の子供たちの活躍が、新聞でも紹介されそうです。次号では、どんな作品が掲載されるのか楽しみです。

【佳作】

「クリスマスみんなワクワク朝六時」花谷 綾音 「土布団野菜ももぐる大寒波」小林 紬

「寒いよと木枯らしたちが騒いでる」田端 純